糖尿病治療薬

糖尿病治療薬は近年注射、内服共に種類が増え、生活スタイルに合わせての薬剤選択も可能になってきました。作用の異なる2種類を配合した製剤や、世界初の週1回のインスリン製剤も今年に入り発売され、投与回数を減らすことで、患者負担の軽減も期待されています。

以下糖尿病治療薬の一部を紹介します。

①インスリンを補充する薬(注射薬)

インスリンを補充する薬には、効果発現時間、持続時間の違う薬剤があり、特徴に合わせて単独または併用して使用します。

★超速効型インスリン(ノボラピッド®注、ヒューマログ®注、インスリンスプロ注等)

皮下注射後速やかに吸収され血糖を下げる。食直前に皮下注射し、食事による血糖の急上昇を抑える作用がある。

★持効型溶解インスリン(トレスバ®注、ランタス®注、インスリングルルギン注等)

作用時間が長く、緩やかに効果を発現し、一日を通して高い血糖を下げる作用がある。

新薬 (2025年1月発売)

一般名:インスリン イコデク

販売名:アウィクリ®注フレックスタッチ

用法:週1回、同一曜日に皮下注

(当院での取り扱いはありません)

★混合型(ライゾテグ®注等)

超速効型と持効型を混合した薬剤。食直前に使用することで、両者の効果を発現することができる。

②インスリンを分泌させる薬(注射薬)

★GLP-1受容体作動薬(トルシティー®皮下注等)、GIP/GLP-1受容体作動薬(マンジャロ®皮下注)

インスリンの分泌を促進したり、血糖を上げるホルモンの分泌を抑えたり、食欲を抑えたりなどの作用があります。血糖が上がると効果を発現する薬のため、低血糖のリスクは少ない。

③インスリンを分泌させる薬(経口薬)

★スルホニル尿素(SU)剤(グリメピリド等)

膵臓に作用しインスリンを分泌させ、血糖を下げる薬。血糖に関係なく効果が発現されるため、低血糖に注意する。

★速効型インスリン分泌促進薬(ミチグリコド®等)

インスリンを分泌させ、食後の血糖を抑える薬。薬の服用から効果発現までが早く、持続時間は短い。食事の直前に服用する。

★ミトコンドリア機能改善薬(ツイミーグ®)

インスリンを分泌させ、また肝臓や骨格筋にも作用しインスリン抵抗性を改善させる薬。血糖が上がると効果を発現する薬のため、低血糖のリスクは少ない。

★DPP-4阻害薬(グラクティブ®、トラゼンタ®等)

インスリンを分泌させ、また血糖を上げるホルモンの分泌を抑える作用がある。血糖が上がると効果を発現する薬のため、低血糖のリスクは少ない。

★GLP-1受容体作動薬(リベルサス®等)

インスリンを分泌させ、また血糖を上げるホルモンの分泌を抑制、食事摂取量の抑制などの作用があります。血糖が上がると効果を発現する薬のため、低血糖のリスクは少ない。

1日1回食前服用。服用後30分は飲食、他の薬剤の服用を避ける。

④インスリン分泌に関係しない薬(経口薬)

★ビグアナイド(BG)系薬剤(メホルミン塩酸塩)

肝臓に作用し糖を作り出すのを抑えたり、糖の利用を促進することで、インスリン抵抗性を改善させる薬。腎機能低下時には使用できない場合がある。

★チアゾリジン系薬剤(ピオグリタゾン塩酸塩)

肝臓に作用し糖を作り出すのを抑えたり、糖の利用を促進することで、インスリン抵抗性を改善させる薬。浮腫に注意する。

★ α -グルコシダーゼ阻害剤(アカルボース、ミグリトール等)

食事による糖の吸収、消化を遅くすることで、食後の血糖上昇を緩やかにする薬。食直前に服用する。腹部膨満感等の腹部症状がでることがある。低血糖時にはブドウ糖を摂取する。

★SGLT2阻害薬(フォシーガ®、ルセフィ®等)

腎臓での糖の再吸収を抑え、尿中に糖を排出することで血糖を下げる薬。脱水、尿路感染症に注意する。